



2019年12月期 第2四半期決算説明資料

2019/08/26

株式会社Welby
(証券コード 4438)

目次



1 会社概要

2 第2四半期業績

3 今期重点取組施策進捗

4 今後の成長

5 参考資料



“Empower the Patients”

患者が、自ら情報を得て、自ら行動して、自ら判断する



Now



Future

PHR (Personal Health Record) のリーディングカンパニー

会社名	株式会社Welby
設立	2011年9月20日
主要事業	医療機器及び関連ソフトウェアの製造・販売・運用（医療機器製造販売許可業）
医学顧問	自治医科大学 小谷和彦教授、他各領域専門医20名以上
主要顧客	アストラゼネカ株式会社、小野薬品株式会社、塩野義製薬株式会社、武田薬品工業株式会社、ファイザー株式会社、ヤンセンファーマ株式会社、経済産業省、徳島大学病院など医療機関多数
提携・連携	デジタルガレージ株式会社、日本郵政株式会社 等
技術顧問	伊藤穰一（MIT Media Lab所長）

主な提携/連携パートナー



主な提携/連携パートナー

医療機器製造販売業 第二種
 情報セキュリティマネジメントシステム
 (ISMS) の国際規格ISO27001認証



【臨床研究】
 徳島大学（糖尿病）
 自治医科大学/国分寺さくらクリニック（高血圧）
 名古屋大学（慢性腎臓病）
 大阪市立大学（非アルコール性脂肪肝炎）

経済産業省「平成26年度健康寿命延伸産業創出事業」参画

「治療アプリ」として、PHRを処方する時代に

～医療機関にて患者に疾患別アプリを紹介：糖尿病、高血圧、がん 等～

1 医師が患者にアプリを紹介

クリニック専用パンフレットで案内
クリニック専用アプリを提供



2 患者自身がかんたん記録

バイタル / 食事 / 運動 / 処方(QRコード) /
検査値(QRコード)等測定機器と連動

Bluetooth® HRジョイント。



4 療養指導を効率的/効果的に 患者の治療が継続

継続患者が増える



3 データをグラフ化、印刷 データは医療機関と共有

医療機関の
PC / タブレット等で確認



食事管理



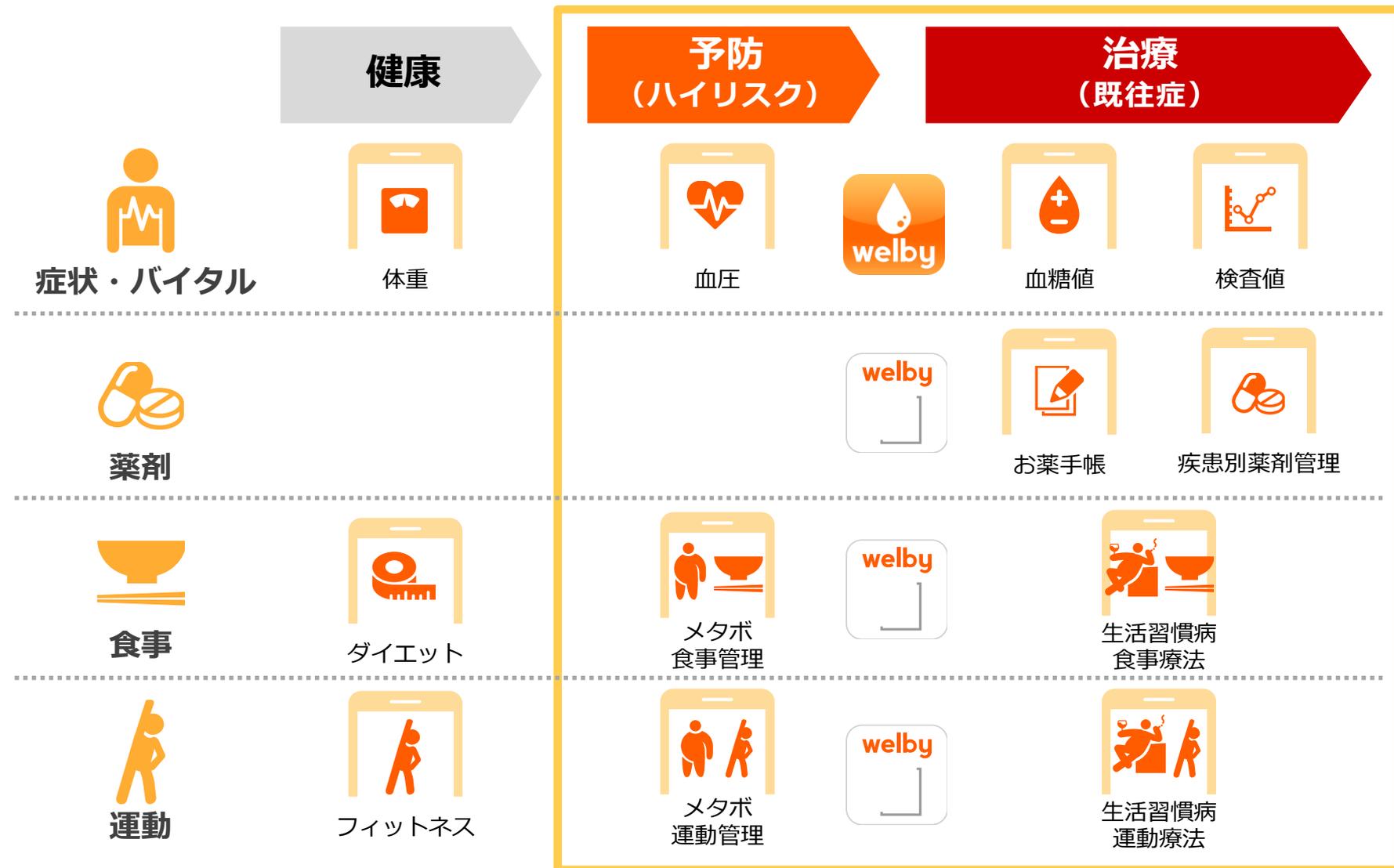
血圧・体重

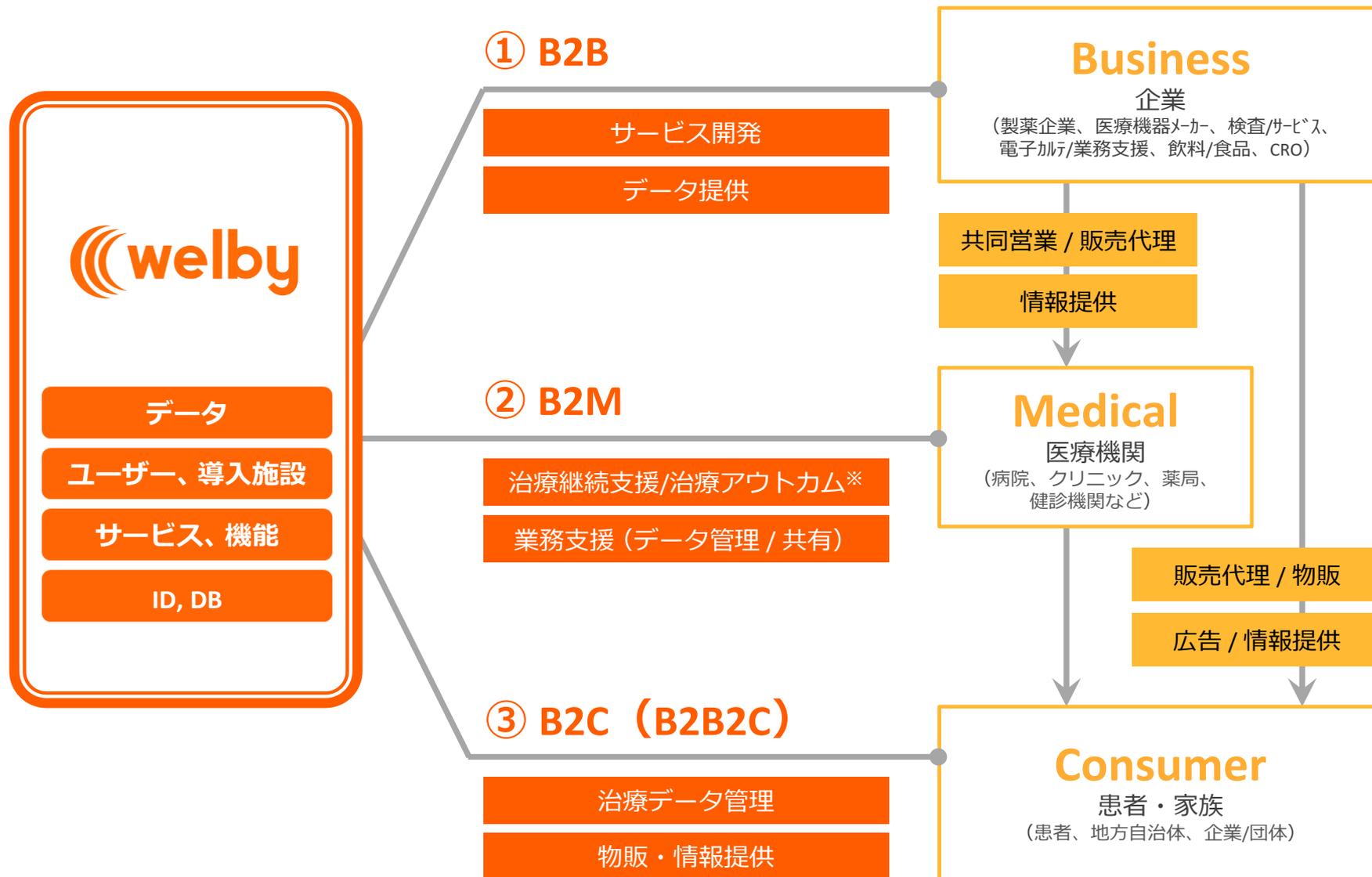


血糖値



治療領域に特化したPHRプラットフォームサービス





「Welbyマイカルテ」

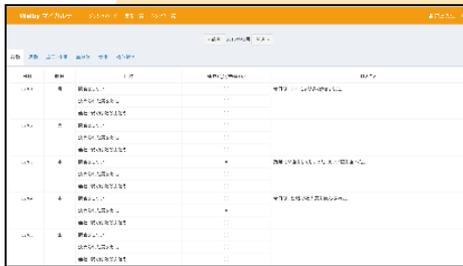
～生活習慣病（糖尿病/高血圧症）向けPHR～



記録内容・方法	測定項目
行動（生活習慣の目標管理/ToDo）	行動目標達成率
運動（歩数/距離） 活動量計と連携	歩数(歩) / 距離(km)/消費カロリー
体重 体組成計と連携	体重 (kg)
血圧（血圧/脈拍） 血圧計連携	血圧 (mmHg) / 脈 (拍/分)
血糖値 血糖測定器連携	血糖値 (mg/dl)
食事 スマホカメラ利用	食事の写真
検査値 検査データ連携/ QRコード利用	HbA1c、コレステロールなど
血管年齢 QRコード利用	CAVI
おくすり 電子お薬手帳/ 処方箋QRコード	服薬記録

患者のデータ(PRO: Patient Reported Outcome)を医療従事者がリモートで管理。患者と食事の写真やデータを見ながら遠隔でコミュニケーション

行動目標



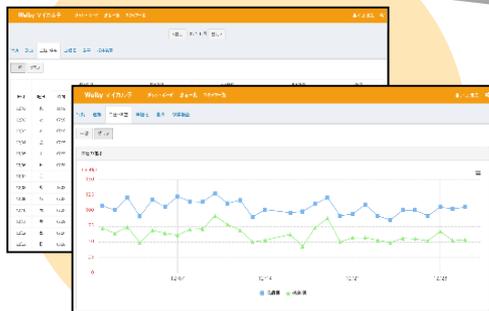
食事



血糖値



血圧・体重



Welbyシェア



医療従事者 ←→ 患者



目次



1 会社概要

2 第2四半期業績

3 今期重点取組施策進捗

4 今後の成長

5 参考資料

エビデンスソリューション

- 日本糖尿病学会年次学術集会において、Welbyマイカルテの利用と治療効果改善の相関についての発表

新たな疾患領域のアプリリリース

- マルホ株式会社と「ニキビログ」(3月)、「アトピーノート」(5月)をリリース
➡ 皮膚科領域でのPHRサービス拡大

新たなステージへ

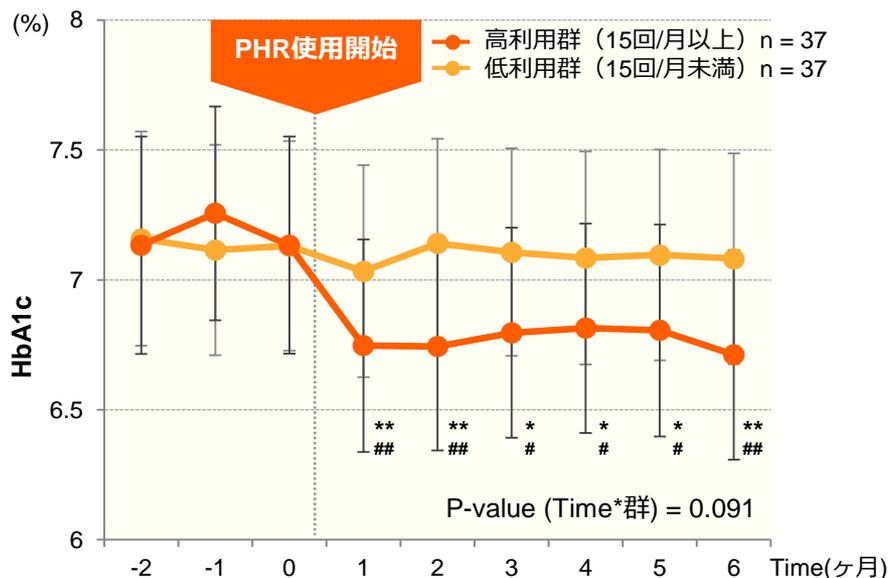
- 東証マザーズ市場へ新規上場 (3月)

日本糖尿病学会での発表で、Welbyマイカルテが患者の生活習慣改善のモチベーション向上と寄与し、一定の利用頻度と治療効果改善が相関することが実証

【PHR利用頻度別：HbA1c】

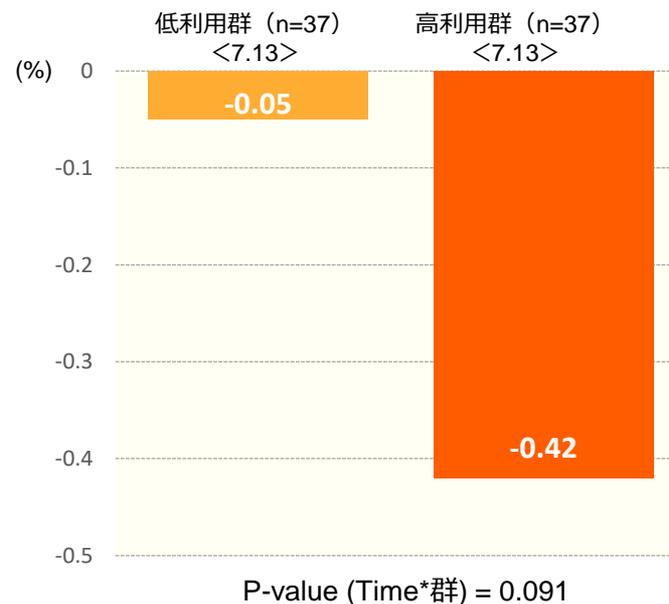
Welbyマイカルテ利用頻度別では低利用群と比較し、高利用群で有意にHbA1cの低下が認められました
(低利用群：-0.1%±0.1%、高利用群：-0.4%±0.1%)

HbA1cの推移



** P<0.01, * P<0.05 vs. 試験開始時 (Time: -2ヶ月) .
 ## P<0.01, # P<0.05 vs. PHR開始時 (Time: 0ヶ月) .
 † P<0.01, † P<0.05 vs. 各Timeにおける群間比較 .

HbA1cの変化量



<> 内はPHR使用開始時点での推定平均値

ニキビ治療完遂を目指した疾患教育×治療継続の仕掛けで ニキビができにくい肌の実現をサポート



maruho

2019年3月リリース



症状管理が
かんたん♪



Point : アプリ専用のクラウドDBで画像保存するので、プライベート写真と分けて管理ができる！

Point : 写真を部位ごとにタグ付け保存，ソートし比較が可能



Point : 治療のマイルストーンを目標日数で提示 ⇒ 治療継続をサポート！

ニキビに良い
正確な情報を知りたい...



Point : 患者向け疾患啓発Webサイトと連動し良質な情報コンテンツを配信

- ①患者向け疾患啓発Webとの連動
- ②日々の利用で知識をインプット
- ③マイルストーンによる治療継続の仕掛け
- ④治療効果を部位毎に画像で振り返り

かゆみ度合の記録と見える化、皮膚の写真記録を通じて スキンケアをサポートし、アトピー治療の質を向上



maruho

2019年5月リリース



カメラロールが
すっきり♪



Point : 肌状態に影響する乾燥・UV・花粉情報をホーム画面で確認（花粉情報は2～5月のみ表示）



Point : 写真を患部ごとにタグ付け保存，ソートし比較が可能

Point : アプリ専用のクラウドDBで画像保存するので、プライベート写真と分けて管理ができる！



Point : スキンケア・お薬の使用状況とあわせ「かゆみ」の変化を振り返り

①患者向け疾患啓発Webとの連動

②スキンケアアドバイスのインプット

③マイルストーンによる治療継続の仕掛け

④治療経過,かゆみ変化をグラフで振り返り

次なるステージへ

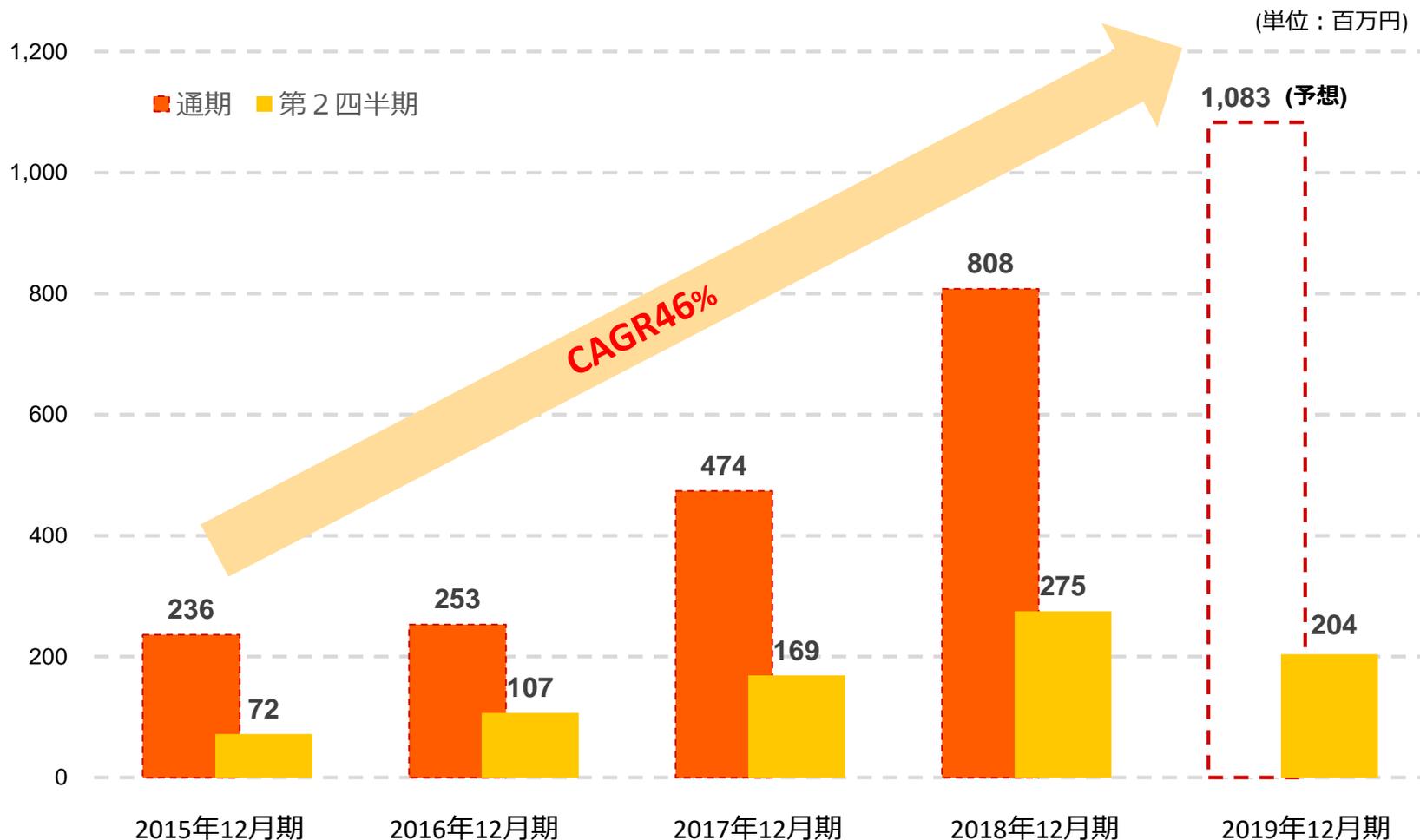


業績は予想通り進捗、売上高は開発案件の受注タイミングにより、前年同期比減
利益は採用の遅れによるコスト未消化分上振れ

(単位：百万円)

	2019年 2Q実績	2018年 2Q実績	増減額	増減率	2019年 2Q予想
売上高	204	275	-70	-25.7%	206
(疾患ソリューション)	165	221	-56	-25.4%	156
(マイカルテ)	39	53	-14	-27.3%	50
営業利益	-101	-19	-81	—	-185
(利益率)	-49.6%	-7.2%	-42.7%	—	-89.7%
経常利益	-113	-19	-93	—	-201
当期純利益	-81	-19	-60	—	-201

5期CAGR46%成長にむけて予想通り進捗



収益構造の変化により、売上総利益率の上昇

2018年2Q

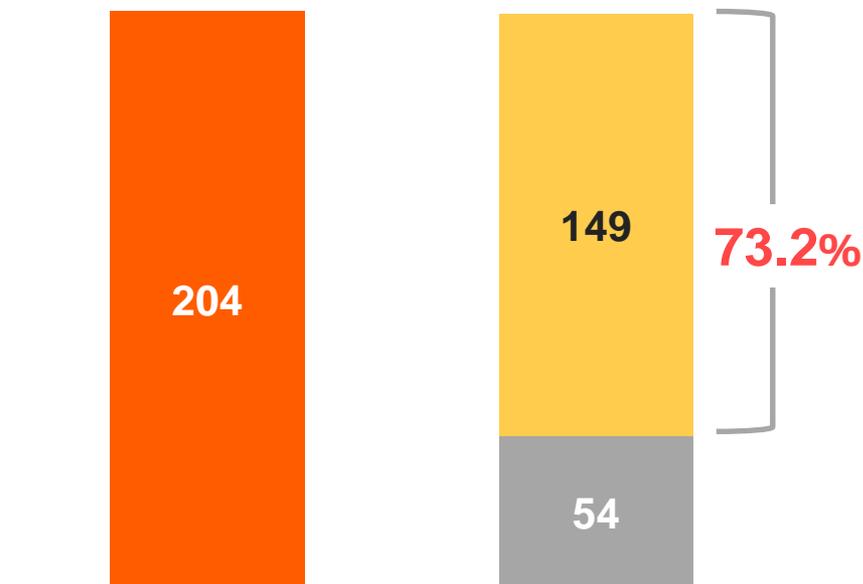
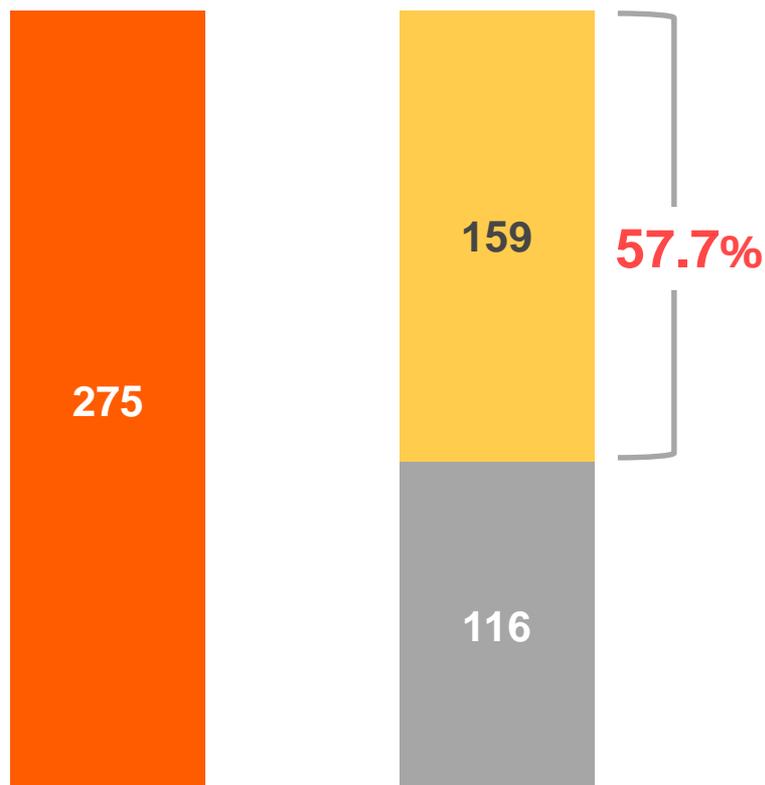
(単位：百万円)

2019年2Q

(単位：百万円)

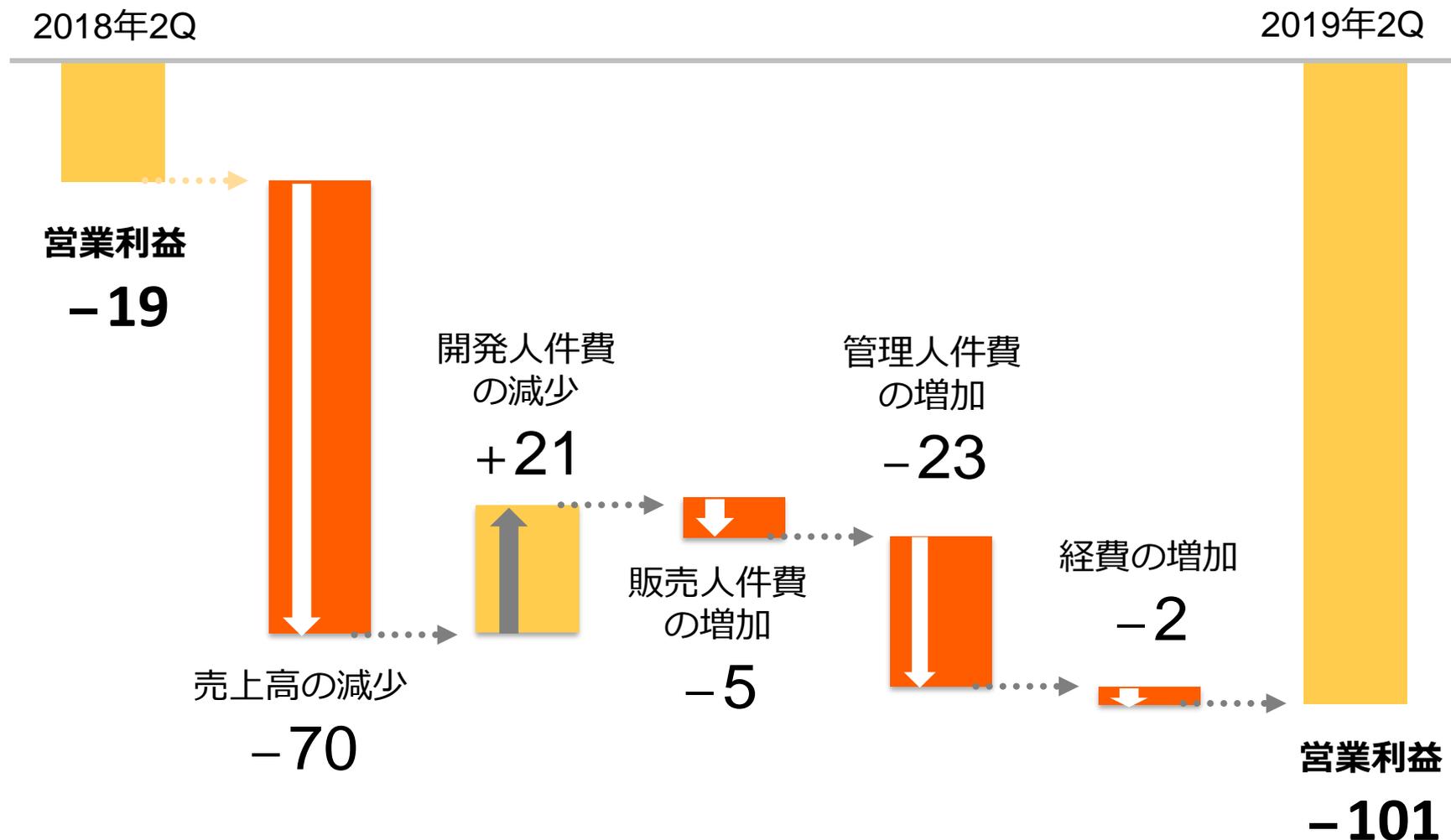
■ 売上 ■ 売上原価 ■ 粗利益

■ 売上 ■ 売上原価 ■ 粗利益



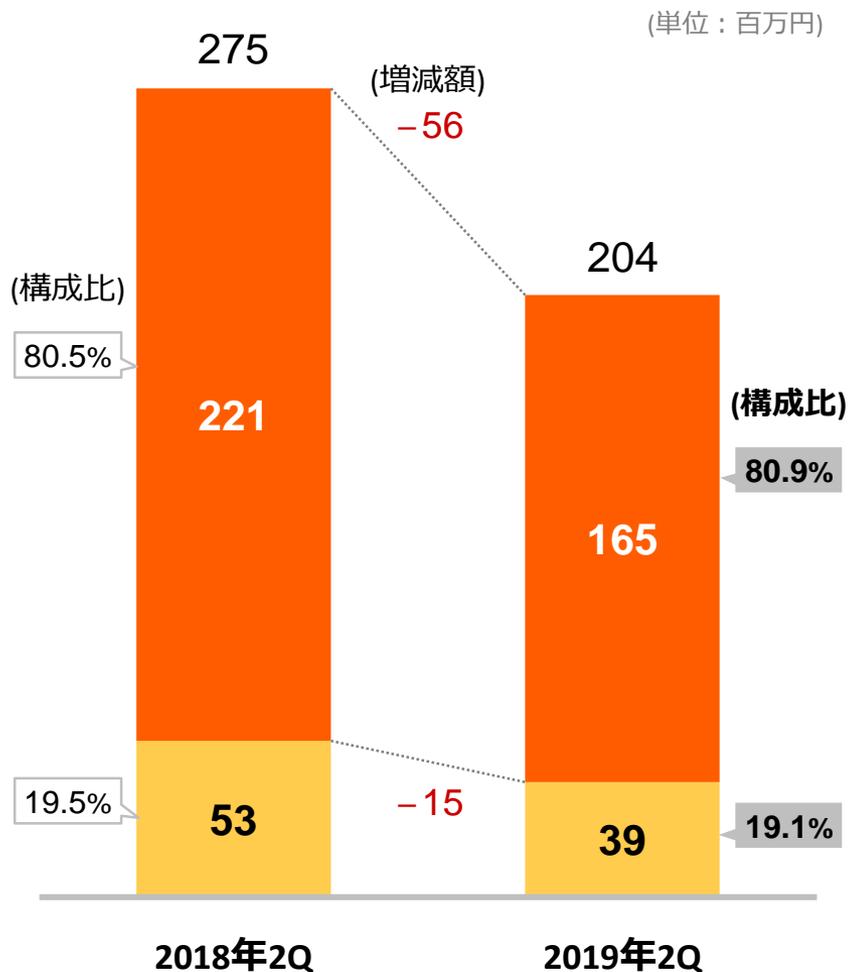
- 営業総利益の減少の要因は前期のスポット売上
- IPOに伴う管理体制強化

(単位：百万円)



前年同期の特殊要因により両カテゴリーとも前年同期比減も、予想通り進捗

■ 疾患ソリューション事業 ■ マイカルテ事業



疾患ソリューション事業

- ・ 前期上期において初期開発の受注がスポットで発生
- ・ 保守案件において、案件数は純増となったが、単価減の影響で減少

マイカルテ事業

- ・ 前期において大型の開発案件を受注

IPOに伴う公募で自己資本比率向上、財務CF増

BS

(単位：百万円)

	2019年 2Q末	2018年 4Q末	増減額
流動資産	1,600	1,304	+295
固定資産	103	101	+1
資産 合計	1,703	1,406	+297
流動負債	79	133	-54
固定負債	26	29	-3
負債 小計	105	163	-57
純資産	1,598	1,243	+355
純資産 小計	1,598	1,243	+355
負債・純資産 合計	1,703	1,406	+297

CF

(単位：百万円)

	2019年 2Q	2018年 2Q	増減額
現預金の期首残高	1,031	1,091	-59
営業キャッシュ・フロー	38	-56	+95
投資キャッシュ・フロー	28	-1	+29
財務キャッシュ・フロー	432	-3	+436
現預金の期中増減額	499	-61	+561
現預金の2Q末残高	1,531	1,029	+501

目次



1 会社概要

2 第2四半期業績

3 今期重点取組施策進捗

4 今後の成長

5 参考資料

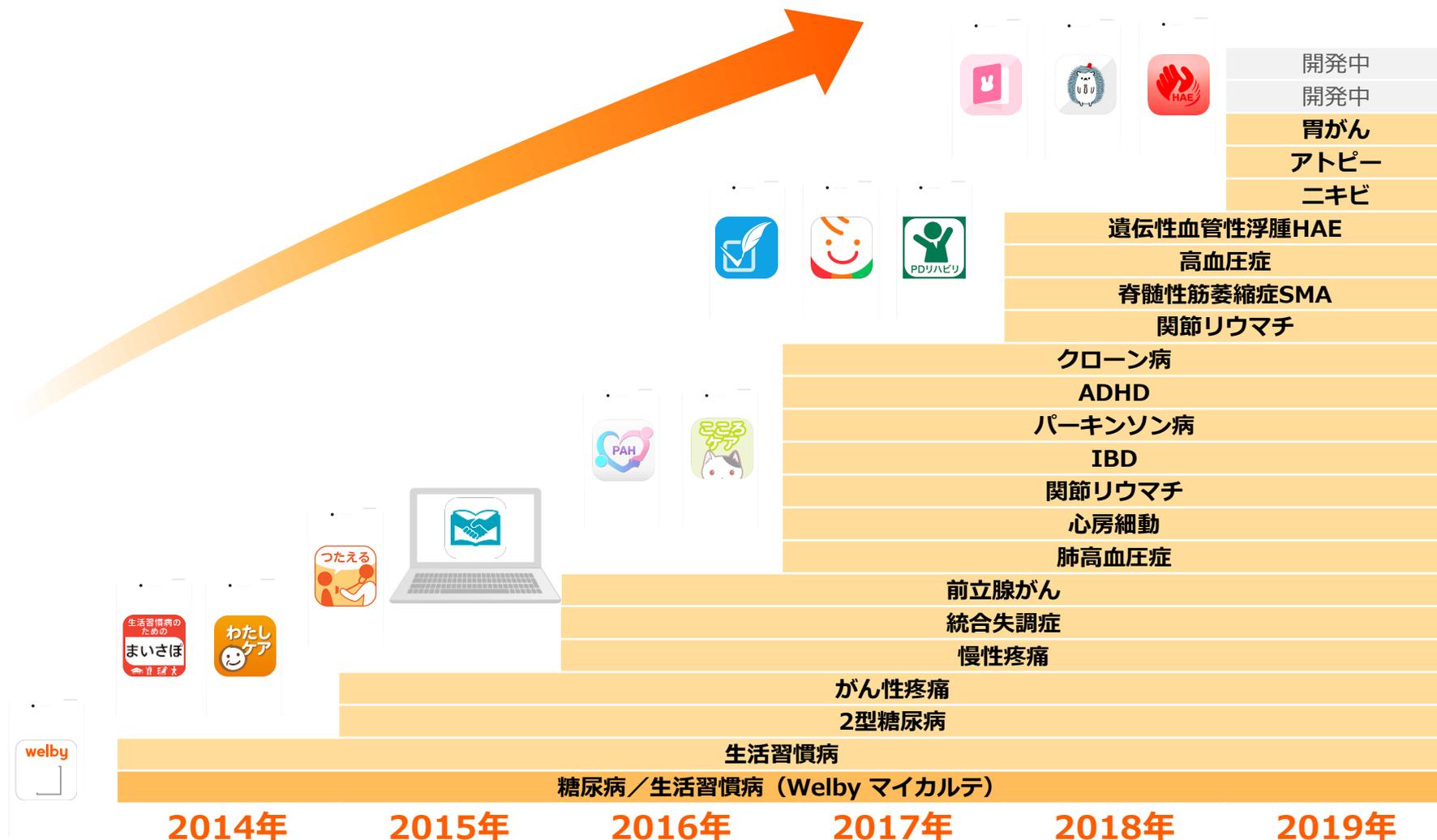
疾患ソリューション事業

- 製薬企業向けアプリ提案による開発収益の確保
- オンコロジープラットフォームの開発、提供
- ePRO（Electronic Patient Reported Outcome）対応ソリューションの提供

マイカルテ事業

- PHRの普及プロモーション：糖尿病、高血圧症、+ NASH、心房細動
- エビデンス構築（学会、大学病院、地域との連携）
- 各種医療サービス機器連携

多数の疾患領域と活用目的で全20Projectの実績



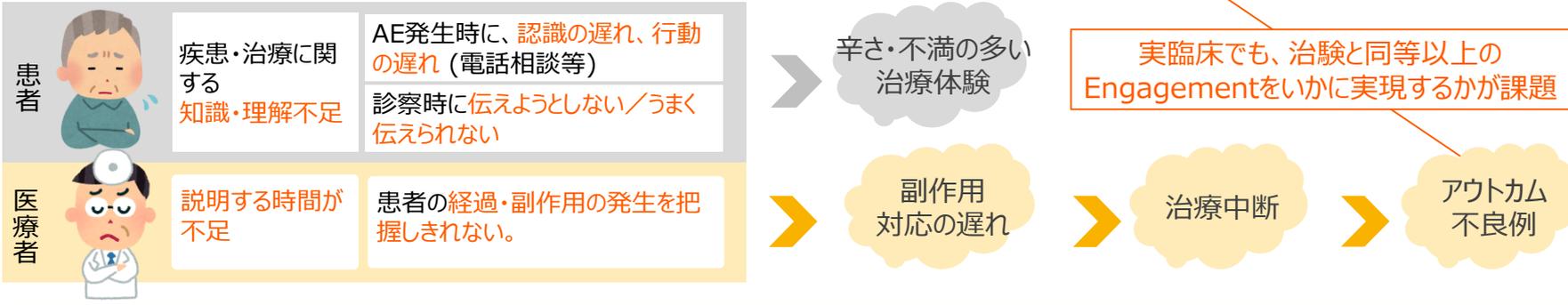
様々な疾患において、自己管理支援・治療支援サービスを展開 今期中に5~10本の新規受注をめざす

<p>まいさぼ (生活習慣病) AstraZeneca 小野薬品工業株式会社</p>	<p>わたしケア (2型糖尿病) シオノギ製薬</p>	<p>らくらく血圧日記 (高血圧症) タケダ</p>	<p>つたえる つたえるアプリ (がん全般) シオノギ製薬</p>
<p>腺ノート (前立腺がん) janssen</p>	<p>こころケア (統合失調症) meiji Meiji Seika ファルマ株式会社</p>	<p>AOZORA (成人期ADHD) janssen</p>	<p>リハビリ日誌 (パーキンソン病) 大日本住友製薬</p>
		<p>Welbyマイカルテ (糖尿病・生活習慣病) janssen</p>	<p>いたみ連絡帳 (慢性疼痛) janssen</p>
<p>リウマチダイアリー (関節リウマチ) ucb</p>	<p>PAHケアノート (肺動脈性肺高血圧症) 日本新薬</p>	<p>SMAiLEE (脊髄性筋萎縮症SMA) Biogen</p>	<p>HAEノート (遺伝性血管性浮腫HAE) Shire</p>
	<p>ニキビログ (ニキビ) maruho</p>	<p>アトピーログ (アトピー) maruho</p>	

今期中受注見込
がん
希少疾患
自己免疫疾患
...

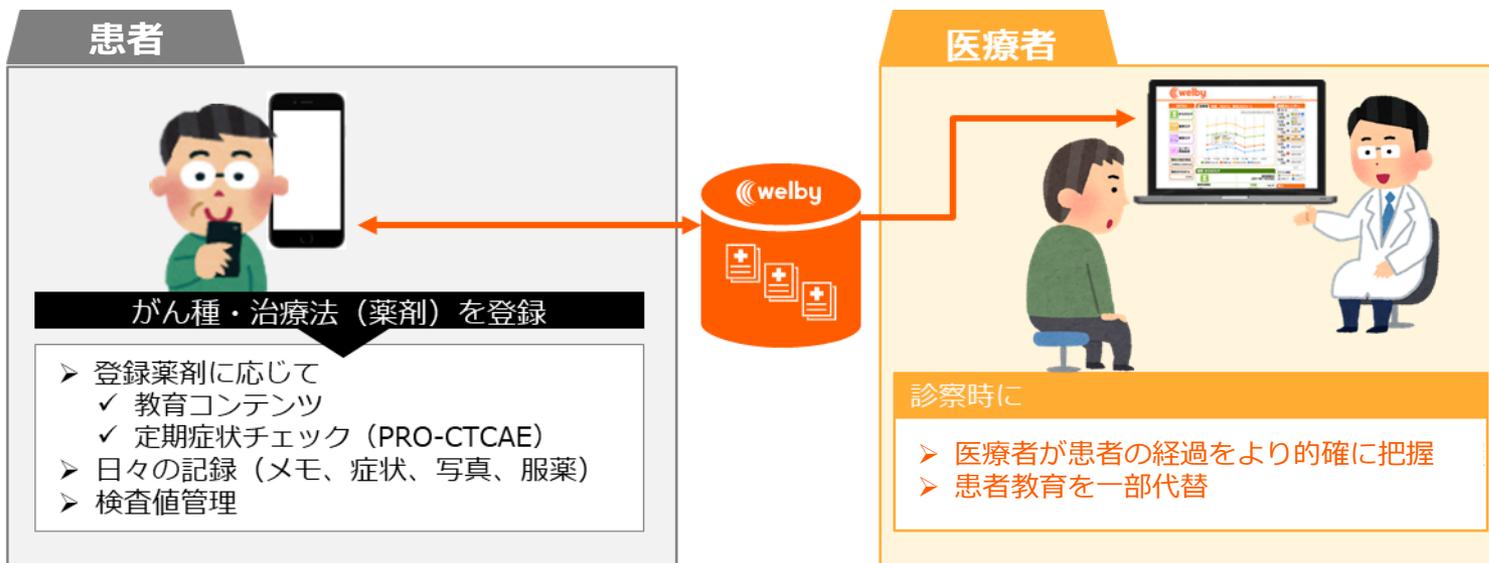
がん治療中の課題

患者－医療者間のギャップ（理解・症状認識・コミュニケーション）



Phase 1

2019年4Q
～
(予定)



※ AE = Adverse Event（有害事象）

通常診察群に比べ、デジタル介入（PROの可視化と必要時介入）により QOLだけでなくOSの延伸（5.2か月）にも効果

OS（全生存期間）：通常ケア群26.0か月 vs PRO群 31.2か月（+5.2か月）

化学療法継続期間：通常ケア群 6.3か月 vs PRO群 8.2か月（+1.9か月<約+30%>）

July 11, 2017

Overall Survival Results of a Trial Assessing Patient-Reported Outcomes for Symptom Monitoring During Routine Cancer Treatment

Ethan Basch, MD, MSc^{1,2}; Allison M. Deal, MS¹; Amylou C. Dueck, PhD⁴; Howard I. Scher, MD³; Mark G. Kris, MD³; Clifford Hudis, MD⁵; Deborah Schrag, MD, MPH^{2,6}

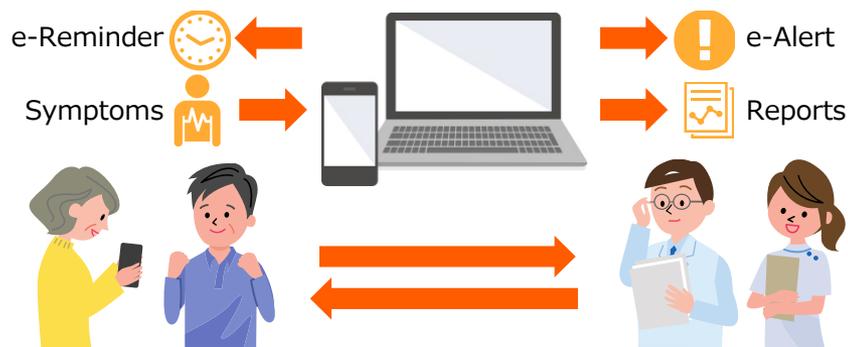
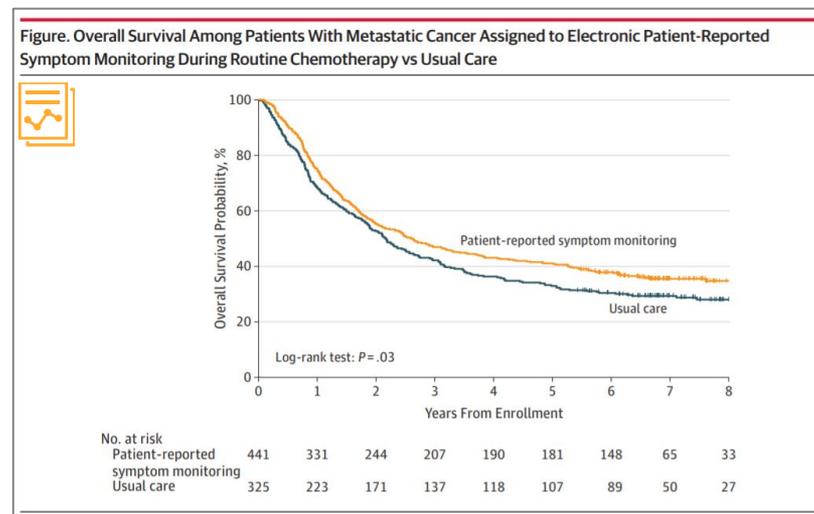
The Journal of the American Medical Association

- Compared to standard care, web-based PROs significantly:
 - Reduce ER visits by 7%
 - Lengthen tolerability of chemotherapy by 2 months
 - Improve patients' performance status
 - Increase overall survival by 5.2 months

Basch JAMA 2017;318:107

PRESENTED AT: 2018 ASCO ANNUAL MEETING #ASCO18

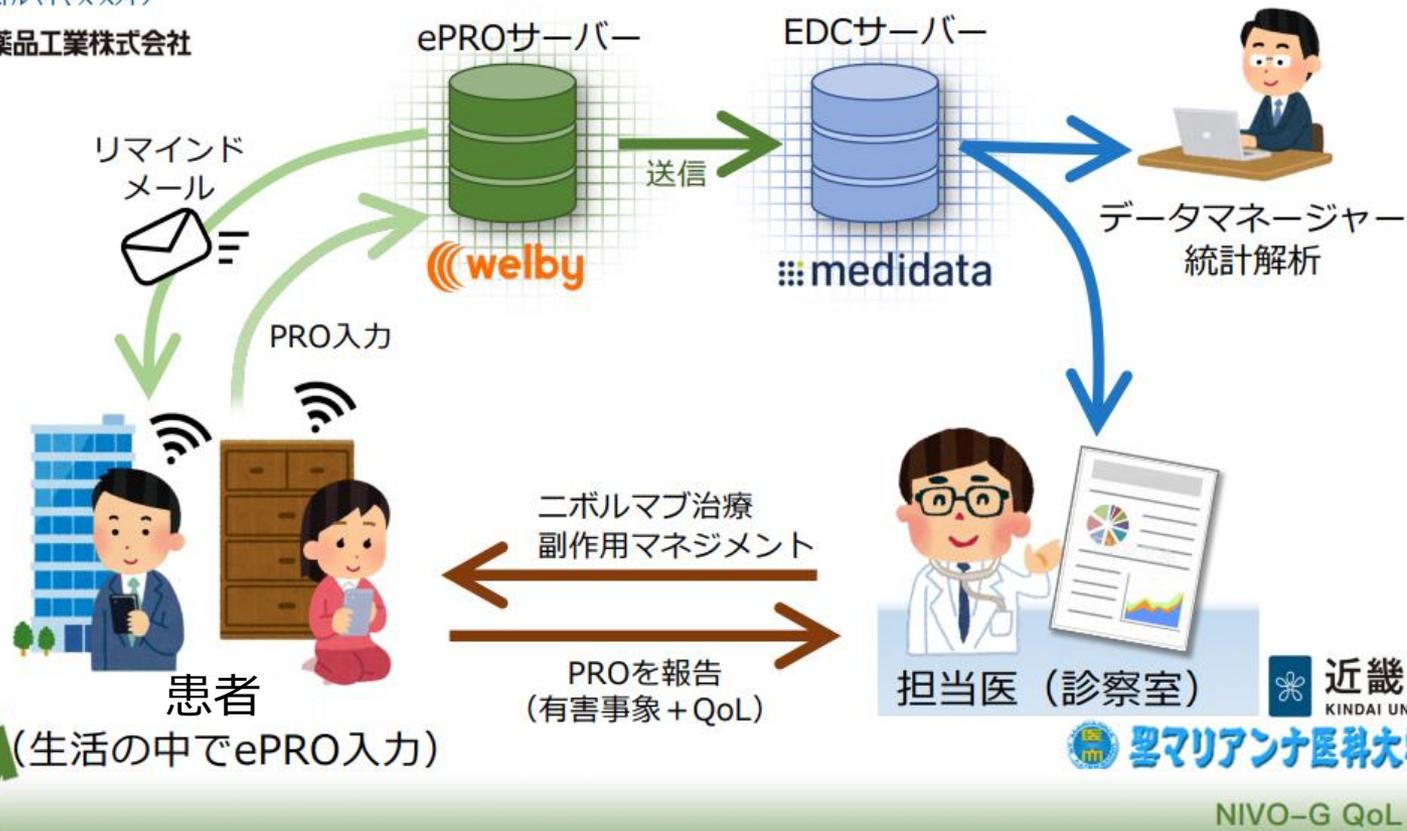
PRESENTED BY: Ethan Basch @EthanBasch1



出所：Overall survival results of a randomized trial assessing patient-reported outcomes for symptom monitoring during routine cancer treatment
 – Ethan Basch, MD, MScほか
 (JAMA July 11, 2017 Volume 318, Number 2)

胃癌ニボルマブ療法におけるQOL前向き観察研究

研究者主導臨床研究支援
プログラムより資金提供

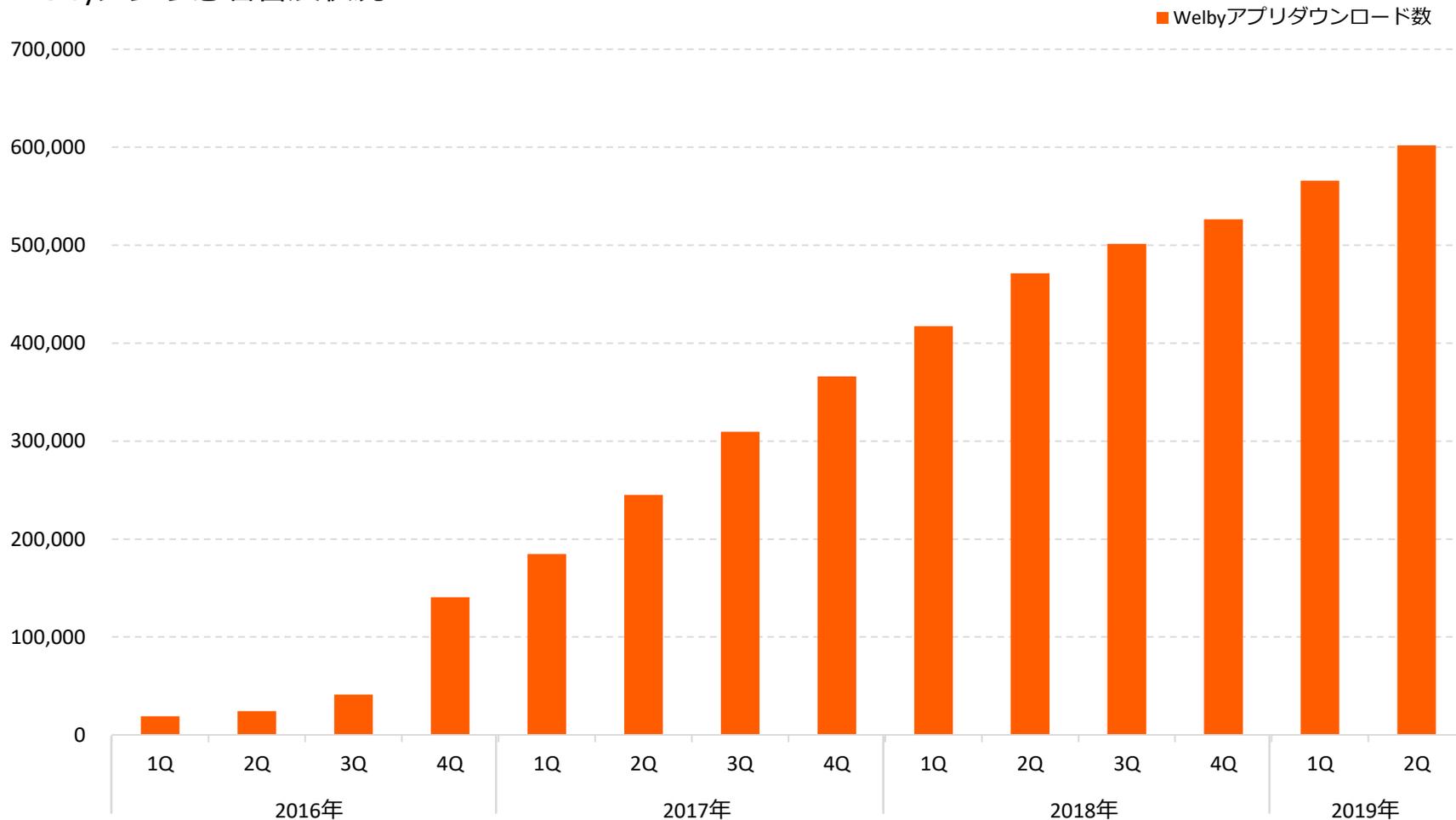


※ ePRO = Electronic Patient-Reported Outcome

※ EDC = Electronic Data Capture

19年6月末現在で60万人超に普及

Welbyアプリ患者普及状況



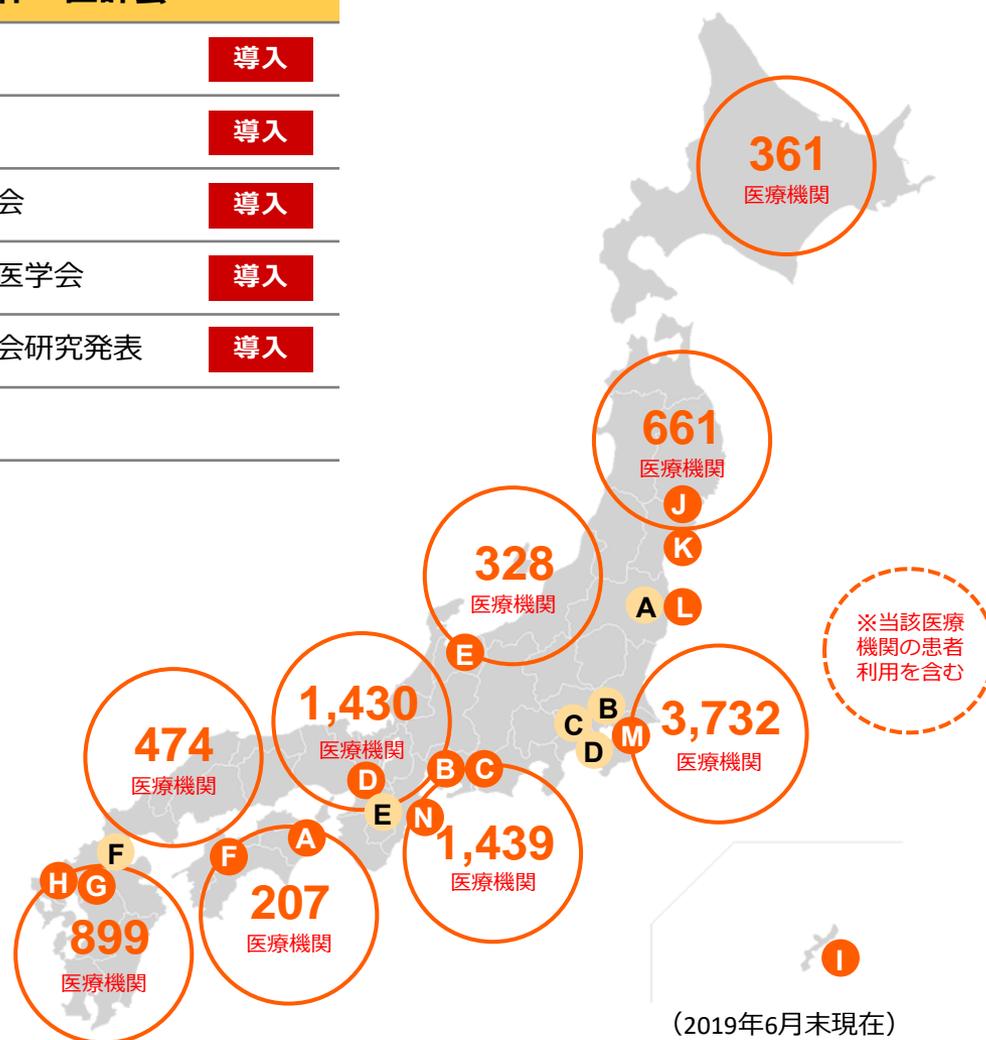
大学病院、クリニックなど約9,500医療機関にマイカルテ導入

大学病院

A 徳島大学	導入
B 名古屋大学	導入
C 藤田保健衛生大学	導入
D 大阪市立大学	導入
E 富山大学	導入
F 愛媛大学	導入
G 久留米大学	
H 佐賀大学	導入
I 琉球大学	
J 東北大学	
K 東北医科薬科大学	
L 福島県立医大	導入予定
M 東京女子医大	導入
N 三重大学	導入

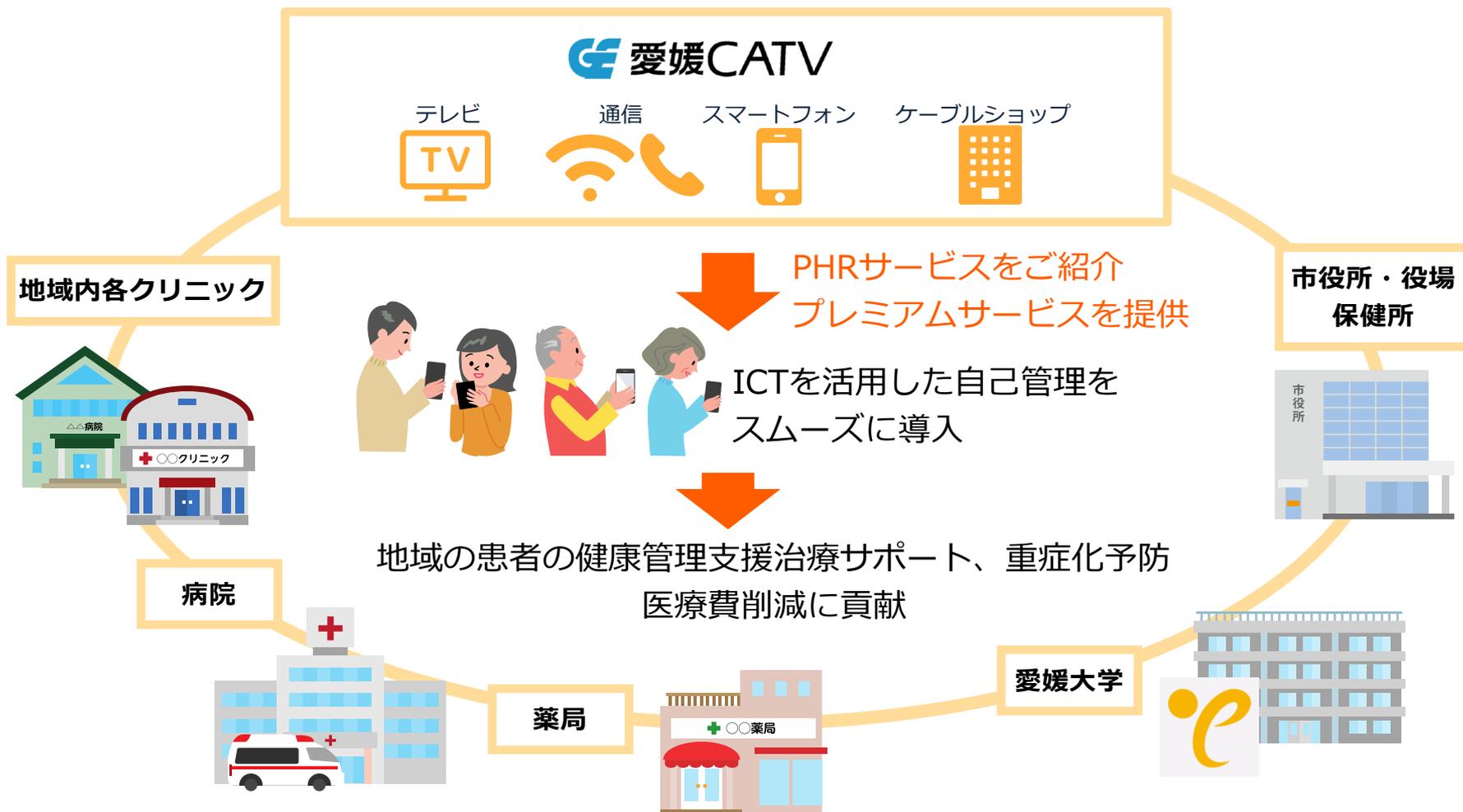
自治体・医師会

A 喜多方市	導入
B 足立区	導入
C 世田谷区医師会	導入
D 神奈川県内科医学会	導入
E 臨床内科医学会研究発表	導入
F 福岡市	



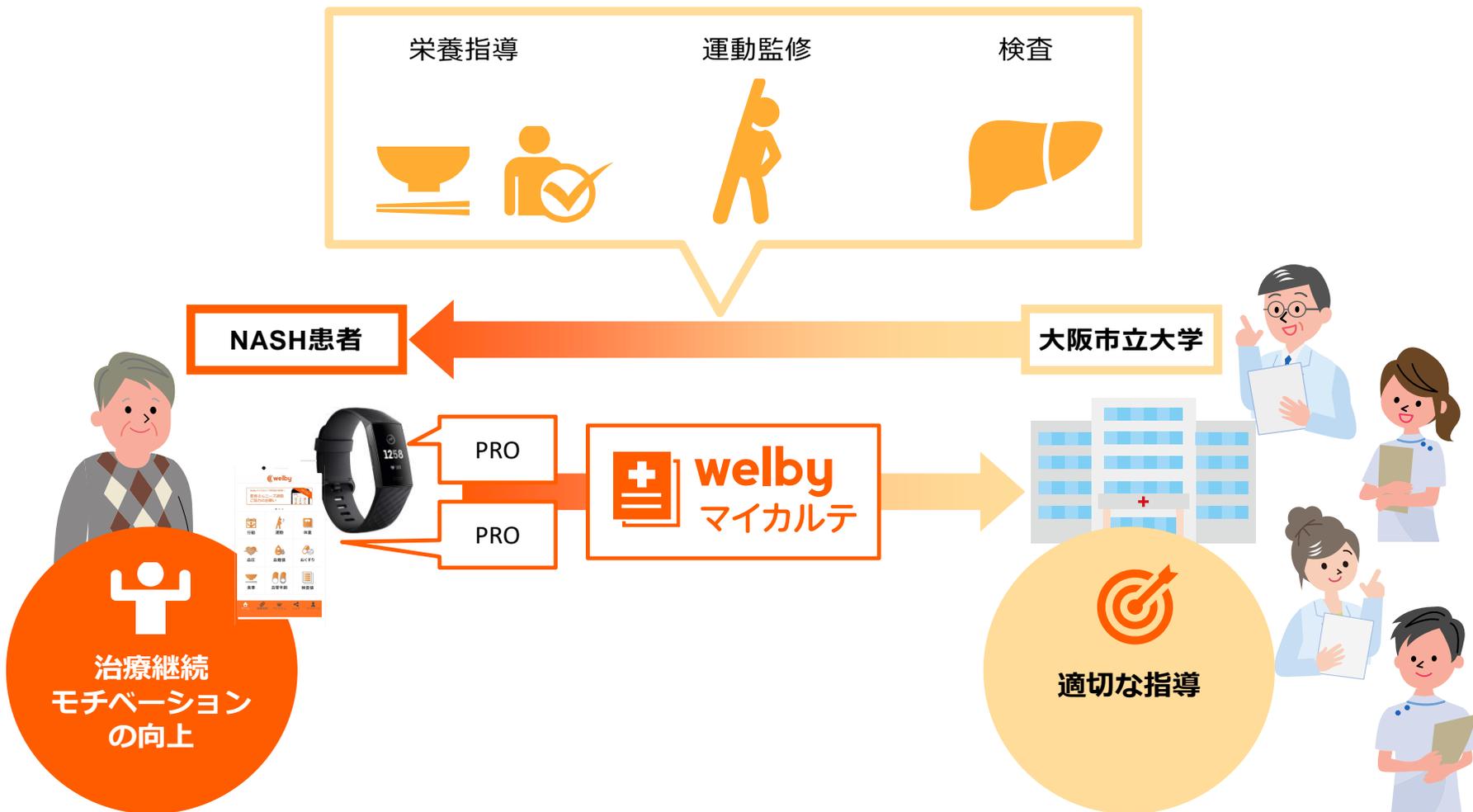
(2019年6月末現在)

愛媛CATVのネットワーク基盤とPHRを活用したヘルスケアプラットフォーム



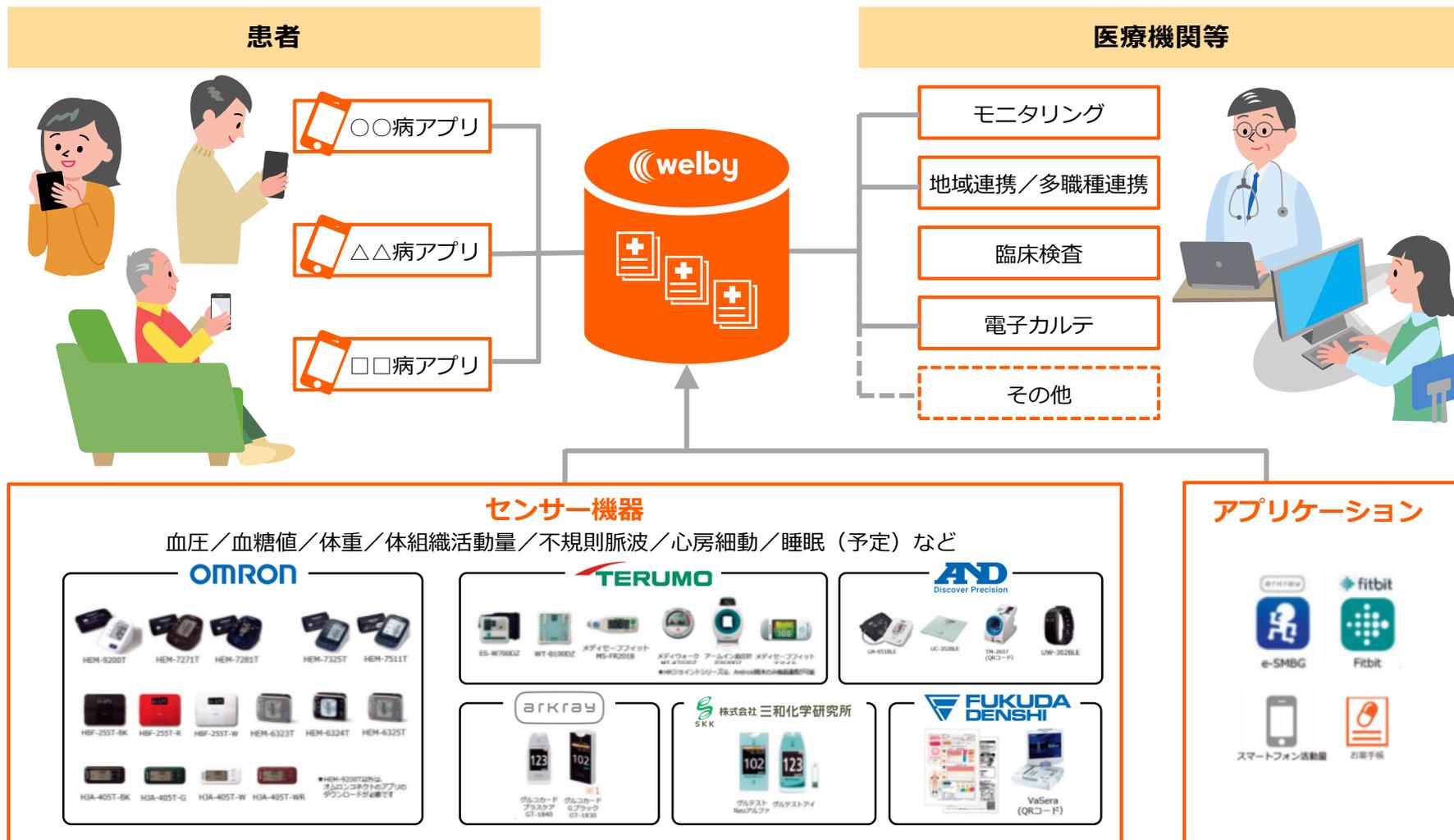
糖尿病領域においては、学会でWelbyマイカルテのエビデンスを発表。

NASH（非アルコール性脂肪肝疾患）領域においては、大阪市立大学と臨床研究を開始



※ PRO = Patient-Reported Outcome

新たにセンサー機器との連携を拡大、医療機関のEHRとの連携項目も拡充



売上高はほぼ予想通りに進捗

利益は採用の遅れにより、コストが想定を下回っている状況

(単位：百万円)

	2019年 2Q実績	2019年 2Q予想	差異	達成率
売上高	204	206	-1	+99.1%
(疾患ソリューション事業)	165	156	+9	+106.2%
(マイカルテ事業)	39	50	-11	+77.2%
営業利益	-101	-185	+83	-
(利益率)	-49.6%	-89.7%	40.2%	-
経常利益	-113	-201	+88	-
当期純利益	-81	-201	+120	-

通期の業績予想に変更なし

(単位：百万円)

	2019年 予想	2018年 実績	増減額	増減率
売上高	1,083	808	+275	+34.2%
(疾患ソリューション事業)	818	626	+191	+30.6%
(マイカルテ事業)	265	181	+84	+46.3%
営業利益	200	156	+44	—
(利益率)	18.5%	19.3%	-0.5%	—
経常利益	184	153	+30	+19.9%
当期純利益	156	176	-20	-11.4%

目次



1 会社概要

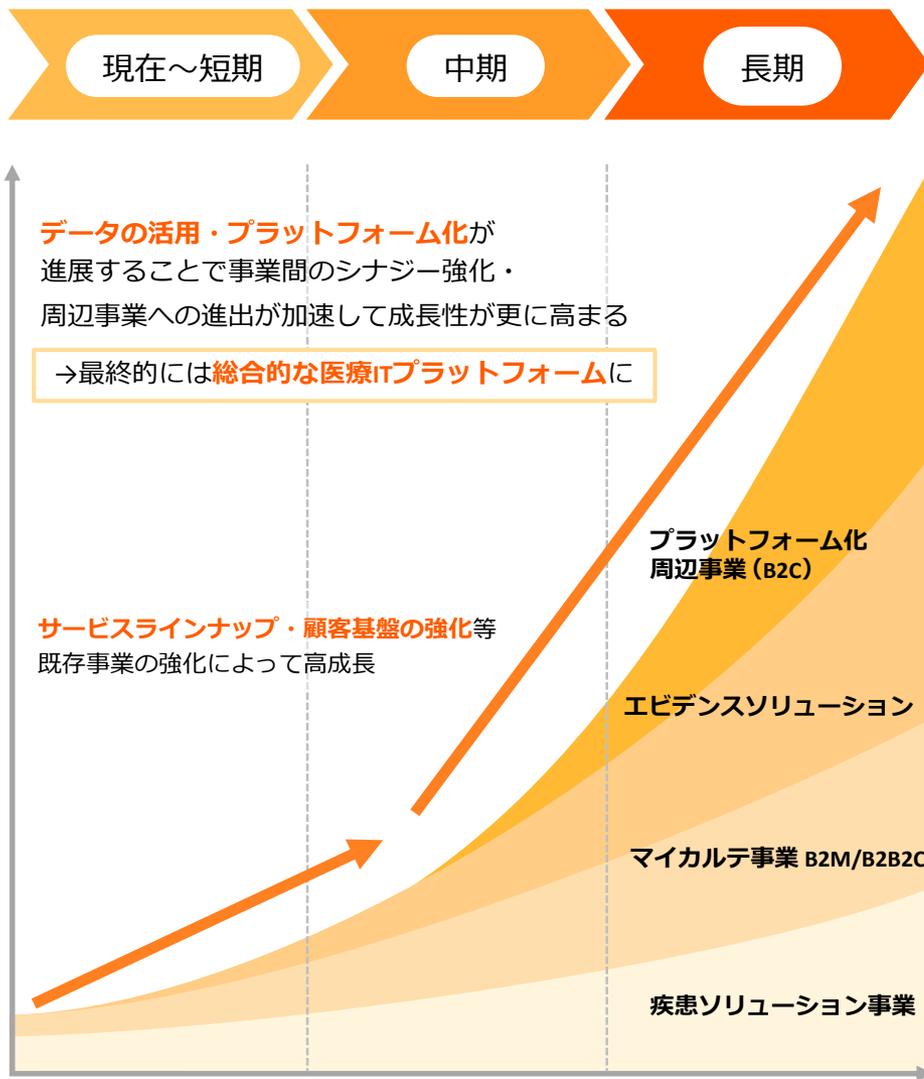
2 第2四半期業績

3 今期重点取組施策進捗

4 今後の成長

5 参考資料

既存事業で拡大しつつ、以下三分野で更なる強化を図る



新規分野

- ✓ **エビデンスソリューション**
RWD (Real World Data) の活用：
医薬品の開発、臨床研究、市販後調査など
- ✓ **疾患領域別プラットフォームの推進**
オンコロジー等疾患領域における新規プラットフォームの
立ち上げ (オンコロジープラットフォーム)
- ✓ **PHR事業付加価値の向上 (長期)**
個人向けB2Cサービス (物販、コーチング)、医療機関向け
CRM機能などPHRプラットフォームサービスの価値向上による
収益機会の獲得

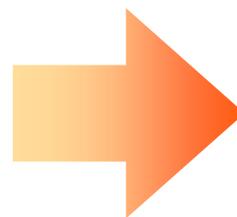
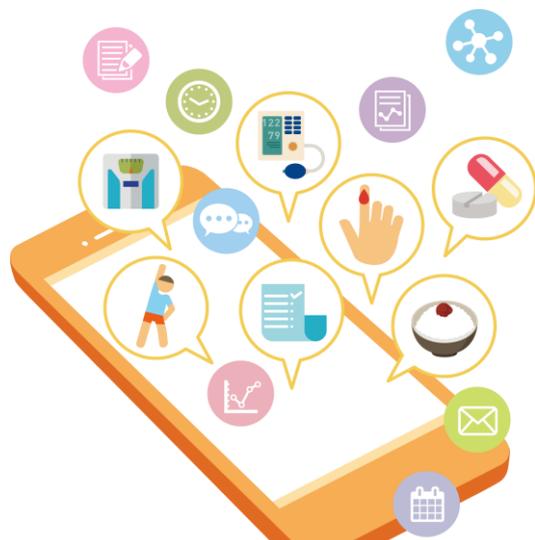
既存分野

- ✓ **疾患ソリューション事業**：PHR適用対象疾患、対象
薬品の拡大による収益拡大 (マーケティング支援)
- ✓ **マイカルテ事業**：EHRシステム連携による普及医療
機関の拡大 (B2M)
- ✓ **マイカルテ事業**：企業・健保向け重症化予防ソリュー
ーションの提供拡大 (B2B2C)

RWD (Real World Data) の活用による事業拡大

～メディカルマーケティングから、RWDによる新薬開発・研究に活用～

マーケティング利用



医薬品の開発・研究に利用



- ✓ 症状記録 (日記)
- ✓ 患者・医療者連携
- ✓ 患者教育ツール (Web連携)
- ✓ 服薬リマインダ・記録
- ✓ 早期検知・介入サポート

既存事業

- ✓ PRO (Patient Reported Outcome) の医療での活用
- ✓ ウェアラブルを活用した臨床研究
- ✓ 長期にわたる観察研究
- ✓ 市販後調査
- ✓ 医薬品の開発、適応拡大

新規事業

特定患者(予備群)へのバナー・メルマガ配信等によるDTCサービス



マイカルテユーザに告知

適切なコンテンツを表示

気づきを与え、行動変容を促す
例) 通院・病識向上・購買など



**大手製薬メーカー、
大手医療機器メーカー、
大手食品メーカーからの多数引き合いあり**

啓発 糖尿病重症化疾患、不眠症、睡眠時無呼吸症候群

勧奨 糖尿病通院、不眠症通院

販促 健康関連食品

目次



1 会社概要

2 第2四半期業績

3 今期重点取組施策進捗

4 今後の成長

5 参考資料

財務ハイライト

回次		第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期
決算年月		2013年12月	2014年12月	2015年12月	2016年12月	2017年12月	2018年12月*
売上高	(千円)	43,160	68,927	236,569	253,464	474,753	808,005
経常利益又は 経常損失 (△)	(千円)	△12,894	△82,932	30,057	△136,122	△76,092	153,959
当期純利益又は 当期純損失 (△)	(千円)	△13,074	△83,198	19,879	△136,412	△76,963	176,566
持分法を適用した 場合の投資利益	(千円)	—	—	—	—	—	—
資本金	(千円)	45,250	60,250	159,916	178,900	684,900	684,900
発行済株式総数	(株)						
普通株式		141	1,460	1,460	1,460	1,680	1,855,000
A種優先株式				147	175	175	—
純資産額	(千円)	64,157	10,959	230,171	131,726	1,066,763	1,243,330
総資産額	(千円)	65,510	32,848	318,094	211,416	1,227,179	1,406,481

*当社は2018年3月30日付で、1株につき1,000株に分割しました。

PHRの普及による医療費適正化の経済効果は約2兆円

ヘルスケア産業の市場規模（推計）

地域包括ケアシステム				
公的医療保険・介護保険				周辺サービス (未算出)
健康経営 関連	運動	食	要支援・要介護者 向け商品サービス*	
遊・学	予防	睡眠	民間保険	
衣	測	住	患者向け 商品サービス	
知	機能 補完*	癒	疾患/介護共通 商品サービス	
				看取り
				終活

ヘルスケア産業	2016年	2020年	2025年
健康保持・増進に 働きかけるもの	約9.2兆円	約10.3兆円	約12.5兆円
患者/要支援・要介護者 の生活を支援するもの	約15.8兆 円	約17.3兆円	約20.6兆円

<出典> 経済産業省委託事業17
*データの制約上、公的保険が数兆円規模で含まれている

- ヘルスケア産業（公的保険を支える公的保険外サービスの産業群）の全体像を整理した上で、民間調査会社等が既に試算している各産業分野の市場規模を集計し、現状及び将来の市場規模を推計。2016年は約25兆円、2025年には約33兆円になると推計された。

導入システム	効果の 発現経路 (ストーリー)	想定される 効果・便益	市場規模	
			現状 (現在の普及率)	ポテンシャル (普及率100%)
地域連携システム (EHR) 電子カルテ (EMR)	医療機関間での 情報共有に基づく 重複検査・投 薬等の回避	医療費の適正化 身体的な負荷の 回避	35B	241B
	患者情報の共有 に基づく医療ミ スの回避等	安全性の向上、 救急医療の 質の向上	72B	228B
遠隔診療 支援 システム	在宅診療が可能 になり、早期に 退院させて在宅 医療を実現	医療費の適正化	24B	282B
	疾病管理や保健 指導を通じた重 複化防止	医療費の適正化	34B	381B
健康管理 システム (PHR)	日々の健康水準 (QOL)の向上	医療費の適正化	39B	1,927B
合計			205B	3,062B

<出典> 野村総合研究所試算

単位：十億円

本資料は、情報提供のみを目的として作成されたものであり、当社の有価証券の売買の勧誘を構成するものではありません。本資料に含まれる将来予測に関する記述は、当社の判断及び仮定並びに当社が現在利用可能な情報に基づくものです。将来予測に関する記述には、当社の事業計画、市場規模、競合状況、業界に関する情報、成長余力及び財務指標並びに予測数値が含まれます。将来予測に関する記述は、あくまでも当該記述がされた時点におけるものであり、将来変更される可能性があります。将来予測に関する記述によって表示又は示唆される将来の業績や実績は、既知又は未知のリスク、不確実性その他の要因により、実際の業績や実績は当該記述によって表示又は示唆されるものから大きく乖離する可能性があります。当社は、財務上の予想値の達成可能性について明示的にも黙示的にも何ら保証するものではありません。

また、当社は、本資料の日付以降の事象及び状況の変動があった場合にも、本資料の記述を更新又は改訂する予定はありません。

本資料には、独立した公認会計士又は監査法人による監査を受けていない、財務諸表又は計算書類に基づかない管理数値が含まれています。

本資料には、当社の競争環境、業界のトレンドや一般的な経済動向に関する統計情報及び調査結果、外部情報に由来する他社の情報が含まれています。当社は、これらの情報に由来する情報の正確性及び合理性について独自の検証を行っておらず、いかなる当該情報についてもその正確性及び合理性を保証するものではありません。

